

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第202号 令和8年 8月 19日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

・ 江別市教職員夏期セミナー実施報告

江別市教職員夏期セミナー実施報告

教職員のスキルアップを目的とした今年度の江別市教職員夏期セミナーは、7月27日（月）、28日（火）、29日（水）の3日間にわたり、「今日的な教育課題への対応」や「GIGAスクール構想の推進」、「いじめ・不登校対策」など、6つの講座が実施されました。今年度も、各校の代表者をはじめ多くの教職員に積極的に参加していただくなど、予定通り実施することができました。この場をお借りし、皆様からのご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

講座①の「今日的な教育課題」では、北海道立教育研究所の研究主幹 木挽 ひろみ 氏より、次期学習指導要領改訂に向けた今後の展望や、その基盤となる3つの考えについてご講話いただきました。今後の準備に向けた見通しを立てる上で、非常に参考となる内容でした。

また、講座後半ではAIの活用や日本語教育の在り方について情報提供がありましたが、受講者からも「AI使用や日本語指導については、実際に直面している課題であるため、今後の自校での取り組みに生かしていきたい。」「最新の教育動向を知ることができたほか、その話題を元に近隣校との交流もたくさんできてよかった。」と大変好評でした。

各学校での実践に直結する学びが得られただけでなく、受講者間のネットワーク構築にもつながる大変有意義な時間となりました。



第一講座で、講師から講話を聞く様子

講座②の「特別支援教育」では、道立特別支援教育センター主任研究員 荒井 美聡 氏より、障がいのある児童・生徒の学びをどのように保障していくかについて、連続性のある多様な学びの場の工夫や各障がい種に応じた関わり方、発達障がいのある児童・生徒への対応など、基本に立ち返った支援の在り方をご講話いただきました。

受講者からは、「知的障がいの定義など、先生の解説が大変分かりやすかった」「児童・生徒に寄り添った支援の重要性を改めて認識することができた」といった声が多く寄せられました。また、後半の実例に基づいた演習は、受講者が日常の実践に直結する学びを得る大変有意義な機会となりました。



第二講座での、グループ討議の様子

講座③の「GIGAスクール構想の推進」では、富士電機ITソリューション株式会社、（株）ベネッセコーポレーションより、デジタル・シティズンシップ（権利・責任・機会の理解）や、学校に導入されているAIアプリの活用について紹介していただく中で学びを深めることができました。参加者からは「ミライシードの具体的な使用方法がわかり、とても充実した研修になりました。」「著作権について深く学習することができました。まだまだ小学生では学習させる機会は少ないと思いますが、しっかり教えていかなければならないと思いました。」「ICT機器を利用させる上で、児童・生徒に身につけさせなければならない能力について整理することができて良かった。」といった前向きな感想が聞かれるなど、有意義な研修となりました。



第四講座で、講師から講話を聞く様子

講座④の「QUを活用した学級づくり」では、北翔大学 理事長・名誉教授 山谷 敬三郎 氏より、5月に実施したQU検査のデータを元に、①データの活用方法、②データの読み取りの中で、特に注意しなければならない注目項目について、③学級集団の傾向に対して具体的にどう対応していかなければならないのか、貴重な講演を行っていただきました。

参加者からも「これまでQUの結果を生かし切れていなかったのが、大変勉強になりました。」「学校に帰ってQUの分析結果を見直し、学級経営での児童・生徒への働きかけに生かしていこうと思いました。」「検査データの具体的な見方の理解につながる貴重なお話でした。個々への関わりや、学級集団への関わりに生かしていきたいと思います。」などの感想が聞かれるなど、本市の教育の充実・発展に向けて大変有意義な研修となりました。

講座⑤の「いじめ・不登校生徒への対策」では、江別市教育委員会教育支援課SSW 田村 千波 氏より、登校ハードルを乗り越える支援として、今後校となっていく校内登校支援室の取り組みについてご説明いただきました。また、講座の後半では、具体的な支援の例として先進的に取り組まれている各校の実践をご提示いただくなど、今後の取り組みに向けた明確な方向性を示していただきました。

受講した参加者からは、「各校の実践を聞くことができ、多様な視点で考えることができました。学んだことを自校の取り組みにも取り入れていきたいです」「他校の校内支援室の取り組みが大変参考になりました。担当として、自校の支援体制を改めて整えたいと感じました」「不登校支援の実態を詳しく知ることができ、自校の体制を振り返る良い機会となりました。自分にできる支援から取り組んでまいります」といった感想が寄せられており、現場での実践に直結する大変有意義な研修となりました。



第五講座で、各校の取組みを紹介する様子



第六講座で、講師から講話を聞く様子

講座⑥の「情報モラル教育への対応について」では、子どもとメディア北海道 副代表兼事務局長 中谷 通恵 氏より、スマホやゲームの長時間利用が子どもたちの睡眠や脳の発達、さらには学力へ及ぼす影響について、具体的なデータを交えて分かりやすくご教授いただきました。また、単に禁止するのではなく、子どもの発達段階に応じた家庭でのルールづくりや、大人の見守り・関わり方の重要性についてもお示しいただき、参加者一同、大変深い学びを得ることができました。

参加者からは、「ネットの使用時間と学力・睡眠との関係についての具体的なデータを見て、今すぐ家庭でのルールを見直そうと感じた」「思春期の子どもに対し

て怒るのではなく、対話を重ねて『子どもの話を聞ける大人になる』大切さに気づかされた」等の感想が聞かれるなど、今後の取り組みに向けた貴重な指針となりました。

各講座の終了後に実施した内容に関するアンケートでは、「大変良かった」「良かった」の評価が全体の9割を超えるなど、今年度も非常に高い評価をいただくことができました。また、今後の講座内容に関する希望や意見として、「実技や演習を通して、直接触れたり見たりできる実践的な講座がやはり分かりやすい」「教育現場での多様性や最新トレンド(AI等)に対応するため、新しい考え方や知見を絶えず学べる機会が欲しい」「理論だけでなく、フィールドワークを取り入れた研修も充実させてほしい」といった前向きなご提案を多数いただきました。これらの貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度の計画に反映させることで、江別市教職員夏期セミナーが教職員の皆様にとって益々充実したものとなるよう、全力を尽くしてまい進してまいります。